

1 自宅や建設地の浸水想定深さを知る

ハザードマップとは？

ハザードマップは、自然災害が発生した場合の被害想定区域や避難場所、避難経路などを表示した地図で、自治体が災害の種類ごとに作成しています。

ハザードマップの種類(例)



洪水・内水



土砂災害



高潮・津波

記号図出典 JIS Z 8210-6.5.1 洪水・内水氾濫/ JIS Z 8210-6.5.2 土石流/ JIS Z 8210-6.5.3 高潮・津波

ハザードマップでわかること

●被害想定区域

法に基づき国などが指定した洪水予報河川が、想定できる最大規模の降雨で氾濫した場合に浸水すると想定される区域の範囲です。色の違いでどの程度の深さで浸水すると想定されているかがわかります。

●危険箇所

水害の際に特に危険となる場所がわかります。(アンダーパスや家屋倒壊等氾濫想定区域など)

●上記の他、避難場所や警察署・消防署の位置など

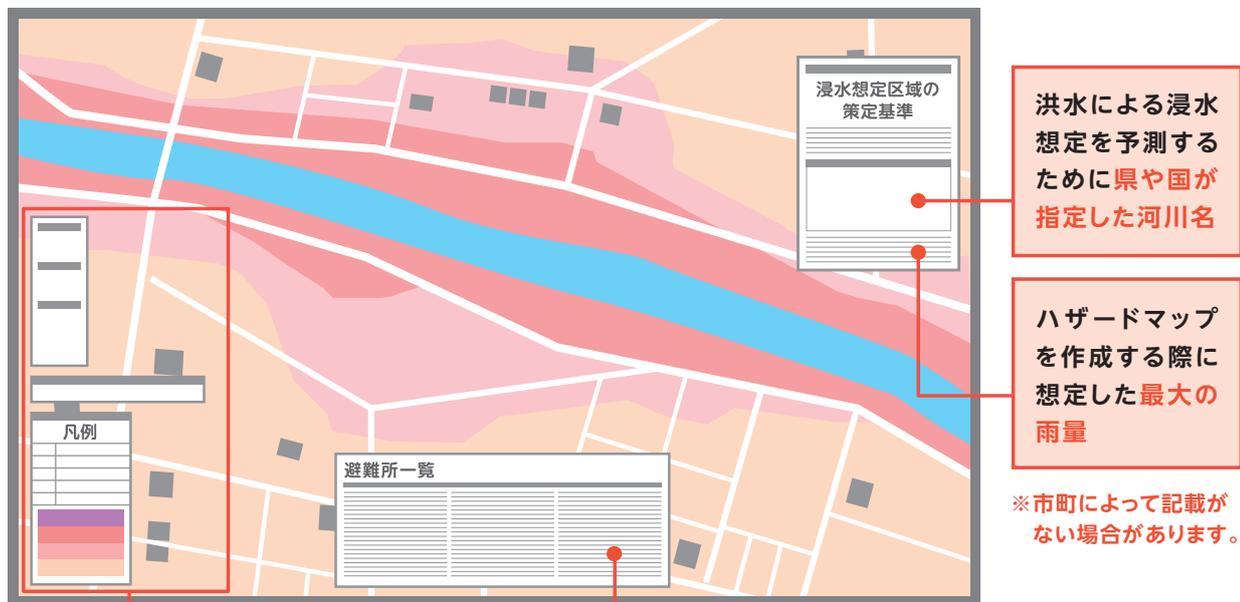
ハザードマップを入手しよう

自治体が配布しているほか、国が運営する「ハザードマップポータルサイト」で確認することもできます。

ハザードマップポータルサイト(国土交通省)
<https://disaportal.gsi.go.jp/index.html>



ハザードマップの見かた



洪水による浸水想定を予測するために県や国が指定した河川名

ハザードマップを作成する際に想定した最大の雨量

※市町によって記載がない場合があります。

凡例と浸水深さの目安

避難所の一覧

20m～	
10～20m	
5.0～10m	2階の屋根以上が浸水する
3.0～5.0m	2階部分まで浸水する程度
0.5～3.0m	1階天井まで浸水する程度
0.0～0.5m	大人の膝までつかる程度

自宅や建設地が浸水する可能性が高い場合、浸水する可能性が低い土地への移転も含めて検討してみましょう。



ハザードマップ以外でも土地の特徴を知ることができます

👉 自宅や家を建てる土地の**近隣の方に**、これまでの浸水被害について**お話を聞く**

👉 これまで起きた災害でどこまで浸水したのかを表示した**標識や石碑を確認する**